第六期武蔵野市コミュニティ市民委員会
第６回委員会（ヒアリング（前半））
議事概要

日　　時：平成 21 年 1 月 23 日（金）18:30～

場　　所：武蔵野市役所西棟　811 会議室

出席委員：高田委員、江上委員、小木委員、橘委員、島森委員、渡邉委員、井原委員、
　　和久田委員、島田委員、井波委員、近藤委員、増田委員、清本委員、西村委員

コミュニティ協議会：吉祥寺東、吉祥寺南町、本町、吉祥寺北、中央、緑町、関前、境南

１．ヒアリング

・コミュニティ協議会への質問に対する回答について、各協議会から補足説明等を発表し、補足説明等を受けて委員から質問が行われた。

・各協議会の質問の回答（要旨）及び補足説明、質疑の概要は以下の通り。

		吉祥寺東	吉祥寺南
① 一番自慢できること		協議会が地域において重点的に取り組むことは、地域における種々の問題に対して積極的に対応していくこと。	開館以来、コミセンニュースを毎月6,000部発行し、南町に全戸配布して、地域住民への広報を大切にしている。 コミュニティ作りのために、慣習にとらわれず、新しい事業に積極的に取り組んでいく気風がある。
② 悩み、困っていること		館の老朽化と狭いこと。	不正な利用（同じ団体が名前を変えて利用、人の名前を借りての利用等）や、モラルに反する利用。 運営委員の意識に差がある。 新しい運営委員の声がけが難しい。
③ 中高生、50～60代の男性への関わり	中高生	・居場所を提供することにより、館になじみを持たせ、コミュニティ活動に参加する機会を増やし、協議会にとり込んでいる。 （大学生・高校生に夜間窓口に関わってもらっている等）	H20年度、初めて中高生向けのイベントを企画（餃子パーティー）。
	50～60代の男性	地域の実情がよくわからず、未だ関わり方も模索中。	「ようこそ南町へ！パーティー」で地域に帰ってくる退職者の方など向けの企画を行っている。
④ どんなコミュニティを作りたいか		自分たちで主体的に地域にかかわれる、またそのかかわりを受け入れられるコミュニティ。	この地域に住み続けるために、地域にとって何が必要か考えた、子どもたちの将来も見据えて世代を超えたコミュニティ作り。子どもから障害者、高齢者まで誰にとっても暮らしよいコミュニティは、住民の絶えざる努力によってつくられることを、皆が承知しているコミュニティを目指したい。
⑤ 今後「こんなことも出来そうだ」ということ		新規主催事業は難しい。月１回の休館日で大掃除のない月の開館利用を検討する段階。	・商店会にももっと呼びかけて、地域の楽しい道づくりや拠点づくりをすること ・屋上太陽光発電をつくること。 ・出前市議会。市政の勉強会（今年度は市の財政の勉強会）。
その他 （補足事項等）		・コミュニティ掲示板と東部福祉の会が設置した掲示板を用いて、地域の情報を提供。 ・現在、災害時の体制づくりにウエイト。 ・PTAや青少協と一緒に実行委員会を作り、盆踊りを開催。福祉の会が開催する福祉フェスティバルにコミュニティ協議会が参加。 ・地域の記憶の保存のため、70代後半から80代の方の話を聞く「東町の昭和史」という活動を実施。	・「みーな」は、使えるところが少ないことが課題であり、地域の商店会に協力を依頼したところ。 ・新しい運営委員は、コミセンの利用者の中から顔なじみになって、入ってもらうことが多い。 ・コミセンニュースの作成は、当初から関わっている核となる方がいて、その上で新しい方を少しずつ開拓。

本町	吉祥寺北
広域から運営委員の参加、委員全員参加での活動。	１．館内で開催できるコンサート事業 ２．地域の団体（PTA、青少協など）と共催で企画・実行をする「北町さわやかまつり」（地域の団体間のヨコのネットワークづくりのため）
１．エレベーターがないこと ２．一階のサロンが暗いこと（改善依頼中） 　ゆっくりおしゃべりをする場所がない。	運営委員の確保 運営委員の高齢化
学習室がないのでサロンを開放。	四中の文化祭の時に、吹奏楽部に演奏をお願いしている。
50～60代男性を対象にした行事等はないが、館内での囲碁、将棋等は毎日来ており、ふれあい講座では一般を対象に「自然編」「防災編」「健康編」などでは呼びかけている。	特定の年代層をターゲットにした事業はない。 ロビーが広く、60代の方の利用はある。
「地域の人たちが気軽に立ち寄れるコミセン」	コミュニティの「輪のひろば」を幅広く広げていきたい。
当コミセン開館の原点「環境浄化」を意識しながら、身近な活動としてコミセン周辺の清掃活動を行っていきたい。	④で行っている「輪のひろば」を大切に、今後も広げていきたい。
・広報誌の配布について、本町だけでなく、他の地区からの委員の近所にも配布。吉祥寺図書館にも設置。マンションにも行事参加者を通じて配布を依頼。 ・買い物に出てきた方が、帰宅途中に立ち寄って休憩してもらえるような企画を検討中。	・「輪のひろば」は1人でも参加でき、それによって継続的にコミュニティの輪を広げていくことができるもの。具体的には活け花、パドルテニス、女性コーラス、子ども映画会など。

		中央	緑町
① 一番自慢できること		・イベントに地域の方が積極的に参加。 ・運営委員の自主的活動の友遊倶楽部	１．管理運営の面で大変まじめ。来館者に親切。利用者の要望に対して常に前向きに考え改善している。施設の点検、内外の清掃に力を入れている。 ２．事業では、文化祭、新春住民の集い、わいわいひろば（子ども）、パソコン学習会、卓球親睦会、フリーマーケット、外国料理教室
② 悩み、困っていること		・ エレベーターが無い。 ・ イベント時の人手不足。 ・ 新しい参加者の参加。 ・ 自主三原則に対する各委員の意識の差。 （イベントをする際などに、腰が重くなる人がいる。）	１．運営委員の高齢化、若い運営委員が入ってこない。ネットワーク事業ほか増加傾向に対処できない。但し、協力員は増える傾向。 ２．建物も狭いが、敷地が狭く、物置の設置がきちんとできなくて困っている。
③ 中高生、50～60代の男性への関わり	中高生	・ ロビーを利用する中学生の様子を見守ったり、笑顔で会話をしている。 ・ 一中フェスタ（青少協の行事）で、中学校と地域の方と青少協、PTA、コミセンが協働して中学生と交流を深めている。	中高生は卓球のラケットを折ったり特にひどい場合は男の運営委員が厳しく叱る。 普通の中高生の利用も多く、マナーは教えながら温かく見守っている。また、卓球親睦会などに参加してもらっている。
	50～60代の男性	・ 男厨料理、歩こう会などのイベントを通してコミセンの活動を理解してもらい、運営委員や協力員への参加を促している。	コミセン行事に参加した方には呼び掛けたりする。
④ どんなコミュニティを作りたいか		・ 地域の人が気軽に立ち寄り、仲間が増えて年代を超えて楽しみながら情報交換が出来る場となり、小さなコミュニティから大きなコミュニティに発展していく地域社会。 ・ 地域とネットワークを作り互いに助け合えるコミュニティ。	１．利用する個人、グループの活発な活動を願うと共にコミセンの企画と連携できるものの発掘支援。発表の場の提供。 ２．地域の緑懇話会（10団体：共同団地、民間の大型マンション、商店街、東学園など）と連携し、まちづくりの推進 ３．エコ活動の推進 ４．新たな企画を常に考えていきたい。
⑤ 今後「こんなことも出来そうだ」ということ		・ 地域の諸団体との協働。 ・ 運営委員を、市内住民なら誰でもなれるようにしたい。他地区の情報も入ってきて、運営が活発になる。 ・ ランチタイムをして地域の方と交流をしていきたい。	１．ムーバスのコミセンを通る路線の開設を要望したい。 ２．エコ活動で電気節約をしているが、太陽光発電装置の設置を推進したい。 ３．もっと子どもが主役となる事業を考えたい。
その他（補足事項等）		・役員を選挙で選出。委員長は最長で3年まで。 ・運営委員は青少協やPTAから入ってくる方が比較的多い。 ・運営委員は中央コミセンのエリアだけだが、協力員はエリアを限定せず幅広い協力を募っている。	・音楽室は、団体で借りるのが基本だが、2日前からはフリーとし、1人でも利用可能。 ・運営委員の確保が難しいことから、特定の項目について専門で担当する専門委員という形を増やしたい。 ・窓口会議を月1回開催し、窓口に寄せられた要望等をまとめ、さらに、窓口会議で出された要望等や問題点を役員会・運営委員会で検討するというシステム。

関前	境南
自由利用できるロビー、レク室は、小学生の利用が多いので賑やか。	文化祭、モーニングハイクなどの全体行事に際しては、全員総出の協力体制があること。役割分担と実行力はすばらしい。団体代表が運営委員になるという境南独自のルールによるものと思っている。
新しい委員がなかなか入ってこない。役員の引き受け手がいない。委員長・副委員長・会計・書記の引き受け手がいない。 現運営委員の高齢化で、各事業の開催が難しくなりつつある。	運営委員、役員の選出方法と任期について、境南独特のルールがあり、要員の確保など運営上の妨げになっていると思われる。打開策として会則の見直しに入っている。 ・コミセンの本来の目的を忘れ、イベントや部屋貸しが目的と思っている人が多いこと。 ・環境の変化もあり、コミセンを必要としない生活に変わってきていること→利用者の減少
受付の記名時に声かけをする。 中学の中間・期末テストの前は、学習室も中学生に開放。 （通常時も利用可としていた時期もあったが、携帯を使ったり、雑談をしたりしてクレームがついたことがあったため、試験前に限定）	・利用面については、中高生も一般の人も区別はない（中学生だけは時間の制約を設けている）。
・昨年より、福祉の会と共催で健康マージャンを開催	50代～60代の男性については、コミセンの運営面での参加を希望しており、団体・サークル活動を通してつながりを持てるようにしたい。団塊世代の活用という面では、この年代層は地域に貢献するという意識は低いと考えており、１つの課題と認識。
地域のつながりの中心になれる場所作り。	“人と人のつながり”のあるまちづくり。 元来、コミセンは、人との出会いの場であり、交流を深める場であり、自分を活かす場であると考えている。このためには、多くの方にコミセンに来てもらうことが大事なことであるが、現状は利用者の固定化傾向がある。１つの打開策として、新住民であるマンション住民をいかに呼びこむかを考えていきたい。
	・防災面で、いざ…というときに救援機能発揮ができるようにしたい（防災体制の整備）。 ・気軽に集まって雑談やふれあいができるサロンづくり（学童問題の解決とロビーの拡大） ・種々のNPO活動との連携によるコミュニティ機能の拡大（これからはNPOが地域において重要な役割を果たすようになるだろう…と考えている）
・運営委員の担い手確保のため、PTAに声かけをし、昨年お母さんがた3名に運営委員になってもらった。週に1回でもいいので協力してほしいということで窓口の仕事をしてもらっている。	・マンション住民への呼びかけのため、コミセンだよりなどをマンションの掲示板に貼らせて欲しいといった働きかけを始めた。 ・運営委員のなり手については他同様苦労している。丁目ごとに4名を選出する決まりのため、誰を選出するかに苦労している。

２．再質疑等

・各協議会の発表、質疑を踏まえた追加の質疑や、全体を通じた質疑が行われた。

（橘委員）　東町に質問がある。掲示板を立てる場合に、その土地の持ち主に承諾をもらわないといけないと思うが、どのような手順で行っているのか。

（吉祥寺東）　これが一番大変である。立てたい場所はほとんど人の土地なので、いろいろな縁を頼っている。前に置いてあったものを付け替える際にも、塀を塗り替える時には外すという約束をしたりして、いろいろな方のご支援、ご協力でつないでいただいて付けている。

やはり掲示板はあればありがたい。犯罪情報などをすばやく出すことができる。特にひったくりや子どもに対することなどは、「何日に連絡がありましたから、お気を付けください」と、警察から来ることもそうだし、身近に起こったことは警察より前に出せるので、本当に有効である。ぜひ市としても各地域に考えていただきたい。

（西村委員）　南町も掲示板では前からかなり有名で、60 箇所ぐらいある。どのようなことを市にサポートしてほしいかも含めて、お話も伺いたい。

（吉祥寺南）　南町は掲示板の左側に「南町コミュニティ協議会」、右側に「南町福祉の会」という名前を入れて立てている。今の東町と一緒で、ご近所の方にお願いして、ご近所の塀に付けているものと、市の空き地にはお願いして付けている。看板自身も自分たちの手作りでやっている。老朽化が進んでいて、次を考えなければいけないというところになっている。各丁目にそれぞれあるので、ポスターなどを貼っている。

（吉祥寺南）　南町コミセンからというわけではなく、個人として伺う。委員になった時に、こういうことをぜひ実現させたいという仮説のようなもの、こんなことがあっていいのではないかという意見をお持ちの方はお聞かせいただきたい。

もう１つ、境南では丁目から４人出た以外は委員になれないということだった。三原則の中に自主参加ということがあるので、無料のボランティアでコミセンに社会奉仕しよう、あるいは自分の持っている時間や労働力を提供しようという意思がある人が入れないというのは、非常に不合理だと思う。そういったことに対して、市はどのような見解を持っているのか。

（高田委員長）　委員としての考えについて。個人的なものだが、コミュニティづくりと

いう時、今までのコミセンの系譜とまちづくりＮＰＯの系譜があると思う。この２つの流れをどのようにして統合するのかを考えたいと思っている。

（事務局）　（市の見解について）境南の協議会で長い歴史を持ってやってこられたことなので､行政としてどうこう言うつもりはない｡見直しの方向でもあるということなので、それはそれで皆さんで決めていただければいいのではないか、そこに対して行政がどうこうということを申し上げる考えはない。

（江上副委員長）　コミュニティ活動の醍醐味というのは、市民が市民自身で自分たちのことを考えて、こうしていこうとなっていくこと。たしかに境南は考えようによってはずいぶん不合理なやり方でやってきたが、今、そのことをようやく、誰かから言われたのではなく、境南の方々がご自分たちでいろいろ考えて、意志を持った方も参加できる形に直していこうと、一歩踏み出した。ぜひ境南を応援してほしい。

（井波委員）　個人的には、コミュニティの今の問題は、後継者がいないことに関して具体的な方策が採られていないのではないかという問題意識を持っている。そのキーワードは 60 代の男性をいかに引き入れるか､これがひいてはコミュニティの活性化に大いに役に立つのではないか。

団塊世代の活用という面で、この年代層は地域に貢献するという意識が低いという考えもあるようだが、(団塊世代の参加のためには)、ここに入ったら何かができる、先ほどの３人寄れば企画書を出せる、何かができるというようなこと、そういった発想を持つべきではないかという問題意識を持ってこの委員会に参加している。

（井原委員）　私は、ＰＴＡの連絡協議会の代表という立場で来ている。もちろん代表といってもすべての会員の立場を吸い上げてきているわけではない。

何回か会議を重ねているうちに、今思っているのは、コミュニティセンターとＰＴＡがもっと連携できないかということ。もちろんＰＴＡだけではなく、町の一員として保護者としてコミュニティセンターと関わっていけないかと感じている。

ＰＴＡは基本的に青少協と密接な関わりがある。青少協の地区委員会の要綱に､「ＰＴＡの役員が入る」と書かれている。青少協は市立の小中学校のＰＴＡが対象になっているから、私立に行っている子どもの親は全然入っていない。町のすべてのことを見てみると、実は青少協ではなく、コミュニティセンターが町の中で一番の核になっていたものだということを改めて気付いた。

これはまだ皆さんにお話ししていないが、たとえば青少協、福祉の会、コミュニティ協議会をもう少しうまく再編できないかと個人的に思った。再編するというのは、ただ単に組織を作り替えるということではなく、たとえばＰＴＡが皆さんの地域の活動に窓口として、とりあえず係り分担といったものでやるかもしれないが、やってみたら楽しかった、自分が変わった気がしたからもう少しそこに関わっていきたいと、自主的に残っていけるような組織ができないものかと思っている。

とりあえず枠と枠の関わりでもいいから、関わっていく何かを作っていくことはできないだろうかと思っている。

（吉祥寺南）　研連の調査研究機能についても検討していただきたい。

自主三原則に関わる問題については、市がもっと積極的にアドバイスをしてもいいのではないか。自主参加が損なわれるような状況があれば、自主参加とはどういうことか、もう少しみんなで話し合ってくださいと、それぐらいのことは市がアドバイスしてもいいのではないか。

（高田委員長）　コミュニティ構想の中に、市はバックアップするという言葉がある。これは前から言われている話だが、市としてはそういった規定があるので、市民中心で市は黒子に回る対応となる。行政の職員たちの集まりでの報告書でもとりあげられており、そういったところも市民委員会で検討していきたい。

〔了〕

第六期武蔵野市コミュニティ市民委員会

第６回委員会（ヒアリング（後半））

議事概要

日時：平成 21 年 1 月 26 日（月）18:30～

場所：武蔵野市役所西棟　811 会議室

出席委員：高田委員、橘委員、島森委員、渡邉委員、井原委員、和久田委員、島田委員、
井波委員、近藤委員、増田委員、清本委員、西村委員

コミュニティ協議会：本宿、御殿山、吉祥寺西、けやき、西久保、八幡町、西部、桜堤

１．ヒアリング

・コミュニティ協議会への質問に対する回答について、各協議会から補足説明等を発表し、補足説明等を受けて委員から質問が行われた。

・各協議会の質問の回答（要旨）及び補足説明、質疑の概要は以下の通り。

		本宿	御殿山
① 一番自慢できること		・恒例の主催事業に加え、パソコン学習会など新しい事業にも積極的に取り組んでいる。 ・受付担当者が、カウンターで来館者と顔を合わせて挨拶し会話を交わしていること、またそのために、運営委員全員が声を掛け合って努力していること。	町会（約850世帯）、御茶ノ水会（老人クラブ）、福祉協議会との連携が良いので活動しやすい。
② 悩み、困っていること		・受付体制で独自に二人体制を敷いている。今後、中型コミセンでも、来館者への配慮、安全面から朝の体制を一人から二人にしていただきたい。 ・運営委員の間に世代ギャップのようなものがあり、新旧で価値観が異なり、意思疎通、意見統一を図るのに苦慮している。 （若い人の要望にはできるだけ答えるようにしており、例えば受付の仕事について、若い人たちからの要望の応じ、文書化して置くようにした。）	運営委員、役員が高齢になり、後に続く運営委員の方がいない。
③ 中高生、50～60代の男性への関わり	中高生	・中高生はロビー、学習室を利用しているが、コミュニティセンターとしては特に積極的に関わっていない。	勉強をしに来ている。吉祥寺駅から近いことから、他地区の生徒が多い。 中高生向けに特別な活動は行っていない。
	50～60代の男性	・50～60代の男性はダンス、カラオケ、囲碁などの利用が多い。なお、パソコン学習会のサポータへの応募を呼び掛けている。（既に数人活躍している。）	・現役で仕事を持っている年代であり、運営には関わってもらうのは難しい。 ・囲碁大会、カラオケ大会などを開催し、参加してもらうようにしている。
④ どんなコミュニティを作りたいか		・風通しの良い思いやりのある明るいコミュニティ、利用者が気持ち良く過ごせる場所を作りたい。 ・住民が参加したくなる魅力ある行事をどしどし推進したい。	誰でも気軽に利用できるようにしたい。
⑤ 今後「こんなことも出来そうだ」ということ		・季節ごとの行事の開催 ・コミュニティセンターの美化のための活動 ・学校、ＰＴＡなどとの意見交換会の開催による学童の保護指導体制の確立 ・映画会の開催	町会で実施していたもちつき大会の復活。
その他（補足事項等）		・運営委員のなり手には大変苦労している。 ・利用の仕方に問題がある小中学生への指導に苦慮することがあった。	・運営委員数は役員20名、運営委員30名の計50名。50～60代の方はほとんどいない。出身は地元の方が中心。 ・町会組織のメンバーとコミュニティ協議会のメンバーは重複する部分が大きい。

吉祥寺西	けやき
(1)実行委員会形式が充実し、幼児からお年寄りまで幅広く交流ができ、活動に参加できる。 (2)開設以来20年間、歴代５人の女性委員長の基で、明るいオープンな運営。 (3)運営委員、協力員、諸行事活動への参加者、実行委員会活動の広がりでの参加者、吉西福祉の会との共催活動への参加者が、他の活動にも積極的に参加し、その輪が広まって発展し、人々の交流に深みをもたらしていること。	・まちづくり局があり、多様化する地域の要望に沿う幅広い呼びかけができること。 ・強制でなくやりたいこと好きな事に門戸が開かれていること。 ・やりたいことを情熱的にやるエネルギーがあること
(1)運営委員の高齢化。なかなか若い人が入らない。そのため、毎年役員を選出するのに苦労。 (2)役員・運営委員が60代以上が主体となり、無償ボランティアによる運営が続けられるかどうか。 (3)無断キャンセルや中学生のゲームへの熱中や、施設へのいたずら、また、ゴミを植木の陰に放り投げていくなど、利用の仕方に問題が多く困っている。	運営委員の人数が多いこともあり、「みんな」の総意がまとまることはなく、動きに時間がかかるし、実行後に不満がでることがある。決まりごとや連絡が徹底しにくい。
・コミセンまつりなどの手伝い、「親子で卓球をしよう」への参加。学習室、卓球、ダンスやゲームなどで利用。 ・騒いで注意をすることも多々あるが、追い出すと居場所がないと思い、気長に取り組んでいる。 一中の先生も気にかけて立ち寄ってくれている。 ・囲碁大会、ピンポン大会などに参加。	中高生に対しては、特に利用時の声かけ程度。時間的なことなども考えると活動に誘うのは難しい。ミニタウン（小学生対象の子どもが作る町）でスタッフとして活躍の場があり、任されて責任を持ってかかわっている。
・学習室の利用。パソコン学習会への参加、その中から運営委員のメンバーになった人もいる。 ・コミセン事業としてはパソコン教室、園芸クラブなどに参加。	特に年齢で対応が違うことはない。 ＰＣやウオーキングなど関心のある分野で、まちづくり局が受け皿になり参加し、そこから運営委員になっていただくこともある。茶社での活躍がある。 仕事上の特技など生かし、コミセン活動にも協力。
(1)地域との繋がりをより密にし、地域の中のコミセンとして関わっていきたい。安心・安全のまちづくりや居場所づくりなど。 (2)・施設面では、井の頭学童クラブ移転後のスペースを、各世代が談笑できるオープンスペースとする。 ・安心・安全のまちづくりのハード・ソフト両面での拠点機能が充実した協議会。 (3)一人ではない、淋しくないと気づくような関わり合いを持ち、いろいろな人と交流して、楽しさと情報交換の中から生活のハリが持てるコミュニティ（地域社会）。	やりたいこと好きな事ができ、そこから友達の輪がひろがり、自由に発言ができたり、みんなのニーズがかなえられる地域になること。 自然に、無理なく、楽しいコミュニティができたらよいが、無責任な集まりにはしたくない。
(1)地域の方々の提案の積極的採用。 (2)・お父さんお帰りなさいパーティの地域版 ・中・高・大学生利用者懇談会 (3)(ｉ)家庭（特に主婦）の生活の一助となること、また、現役引退の男性にやること発見のお手伝いなど。 (ⅱ)コミセンとして市民農園を借りて地域住民と共に農作物や花づくりなどを行い交流を図る。	防災の拠点。 食事を一緒に囲む場所づくり。
・運営委員について、昔はPTA経験者が青少協に入り、その後コミセンへという流れがあったが、子どもが私立の中学校へ入り、母親が地域に関わりがなくなってしまう。また、母親でパートに出る人が半分以上いて、昼に会議を開いても集まらないなど、環境の変化がある。 ・運営委員の確保：推薦・紹介を通じた加入や、主催教室（書道など）を通じた加入。	・運営委員は65名。なり手の確保にはあまり苦労していない。 ・子どもがコミセンのイベントに参加することをきっかけに協力員となってイベントに協力し、参加するうちに運営委員の仕事を理解し、運営委員になるといった流れで運営委員になる人が多い。 ・子どもたちを主体としたイベントが多く、子どもだけでなく、大人も一緒に参加する雰囲気。

		西久保	八幡町
① 一番自慢できること		公明正大な、公平な運営に一同努めている事。	★秋のコミセンまつり･･･日頃コミセンを利用され活動される個人・団体が地域としてまとまり、展示、模擬店、芸能と１年の総集約として実施できている。 ★機関運営の安定定着･･･毎月役員会・運営委員会を開催し、住民の意見、提案を積極的に取入れ、総会には、１年間の活動報告を一冊の書にしてお知らせしている。
② 悩み、困っていること		言葉の暴力常習者の後始末。	★利用者が少ない･･･施設が狭い。気軽に立ち寄れるロビースペース等がない。部屋も狭く限られていて利用不可。 ★主幹事業・行事が自分のコミセンでできない･･･多くの人を収容するスペースがない。
③ 中高生、50～60代の男性への関わり	中高生	試験勉強時期には状況に応じ、勉強用に特別室を提供。	★柔軟なささやかな対応で貢献している。･･･中高生の放課後の居場所として、部活・イベント準備の部屋、勉強部屋として利用してもらっている
	50～60代の男性	特別扱いはせず、運営への参加も自由。男の料理教室等は50～60代の男性も対象にした事業。	★50～60代の男性に対しての関わりは、ほとんど意識なく、これからの課題。
④ どんなコミュニティを作りたいか		今時、貴重なボランテイア精神の発揮できる現形態を維持・存続させる事。	★地域の老若男女みんながコミュニティセンターを知り、理解し、いつでも気軽に出入りし、楽しく集える場で、幼児からお年寄まで事業行事にも参加でき、和やかな交流ができるコミュニティ。
⑤ 今後「こんなことも出来そうだ」ということ		防犯、防災、環境等皆さんの共通課題への取り組み参加。	★センターの建替えを前提として････ 地域に住んでいる色々なことに秀ている方々の講演会、講習会、お話会等をとりいれ、いつまでも元気で生きる為にも、地域の人達との楽しい生き方を応援できるようなことは出来そうだ。
その他（補足事項等）		・運営委員35名、協力員7名。 ・来年度から3名新規加入予定。うち1名はコミセンだよりを見て、明るい楽しい雰囲気で楽しそうだということで参加。 ・PTA、青少協、関前コミセンなどと共催で、ナイトハイクを実施。	・新規メンバーは、コミセンだよりを見たり、既存メンバーが参加している地域の団体で呼びかけをすることで加入。

西部	桜堤
子どもまつり、ふれあいまつり、文化祭、スプリングコンサートは、他のコミセンと比べて伝統がある、地域のＰＴＡ、青少協などがかかわるイベントである。	幅広い年代の利用者からとても感じの良いコミセンといわれること。 初めて利用した方から、窓口の方も感じがよく部屋も明るくきれいで気持ちよく使わせていただいた、また利用したいと言ってくれること。
当コミセンは境１丁目から５丁目、桜堤１・２丁目が地域である。境１・３丁目はコミセンから遠くなかなかこれない。地元商店街なども行事等には参加してくれない。	① 役員を引き受けてくれる人がいないこと。 ② エレベーターがないこと。
バドミントン、卓球に関わっている。	① 中高生の利用も多いが、今は問題もなく他の利用者と同じように普通にかかわっている。 ・中学生に関する行事としては、星の観望会、夏祭り、文化祭などを開催。 ・1階の幼児室の利用がない場合は、許可を得て中学生が利用している。
視聴覚室を使っての音楽、囲碁将棋、卓球、パソコン教室に関わっている。	② 50代～60代の男性も行事には大勢来てくれる。 （広報誌は全戸配布、回覧板組織による連絡、ホームページによる広報） が、団塊の少し上の世代の退職した方に運営委員として窓口担当をお願いしても受けてくれる方はなかなかいない。（忙しい方が多い。）
地域の亜細亜大学、小中学校ＰＴＡ、青少協、商店街、地域社協等が運営に加わっていただきたい。	地域や利用者のニーズに応えられるコミセンづくり
体力づくりに関したイベント（ウォーキング教室・ナイトハイク）を持ちたい。	
・運営委員約45名、協力員約20名。 ・新規メンバーは、実行委員会形式で事業を行う中で、声がけをして加入。	・運営委員34名、協力員16名。 ・PTAに対し運営委員の勧誘をしたことはないが、桜堤の運営委員が青少協の委員や、「あそべえ」に参画していることから、お互いに協力するという意識は浸透。

２．再質疑等

・各協議会の発表、質疑を踏まえた追加の質疑や、全体を通じた質疑が行われた。

（吉祥寺西）　全体を聞いて、どんなコミュニティづくりをしたいか、具体的なイメージを持っているコミセンがないように思った。

たとえばまちづくりの概念で、私が知っていたけやきが掲げていたモットー、テーマ、まちづくりの原点は「花と緑のまちづくり」だった。たとえば吉西では、「安心・安全のまちづくり」ということをうたっている。そういう具体的なもの、どのようなまちにしたいのか、についてあまり具体的に言及がなく、もっぱらコミセンの運営について苦労しているという話が多かったので、少しがっかりした。もう少しまちづくりという意味でコミュニティ協議会の果たす役割について、われわれ自身で考えていく必要があるのではないかと考えている。

（高田委員長）　必要なことである。まず、皆さんの考えていることを聞いて、これからそういったことを具体的に考えていきたいと、こちらの委員会でも思っている。けやきについて、今どんなまちにしていこう、ということはあるのではないか。

（けやき）　けやきということではないが、コミュニティが元気になるということについて。コミセンにいてみんなの活動を見ていると、熱意を持って自分の意見を言い合うことが多い。

コミュニティは自分の生活する場所なので、自分たちで元気にできるという考えを持っている。みんなが元気になること、そこにいて自分の人生を実現するのだというぐらいのエネルギーが出てくる場所、それぞれの人のクリエイティブな面を受け入れていく場所、それがコミュニティだと思う。みんながそれぞれ違った目標やニーズを持っているので、運営委員の人たちのやりがいをどうやって高めていくかということで、１つにまとまるのは難しい。そういう意味で、多様なニーズを一緒に抱えて、みんなでそれぞれの人の希望を少しずつ受け入れながら活力を持つ、そういうコミュニティが目指すべきコミュニティではないかと考えている。

（井波委員）　西コミセンの方に伺いたい。③の中高年、50 代 60 代の男性とどう関わっているのかということについて、今後コミセン活動、地域のコミュニティの担い手となるのがその人たちだと思う。もちろん女性も大事だが、特に 60 代の人たちがこれから必要だ

と思う。それについて、日頃市報の最後のページにあるコミセン活動のお知らせをよく見るが、何か欠けているのではないかという気がしている。

１つは、コミセン活動に教養的なものがないということ。たとえばパソコンはあくまでもツールである。覚えることで、パソコンに対しての知識はできるが、他の知識は生まれない。

ここに書かれている囲碁やピンポン、ダンスなどがあるが、何か欠けているのではないかと思う。そういう人たちを引き寄せることに欠けているのは、教養の部分ではないか。たとえば教養講座など、趣味でもいいが。西コミセンの方が非常によくやっていらっしゃるのは分かっているが、そのあたりについて、今まで考えたことはないか。

（吉祥寺西）　ここに書いてあるのは、その方たちがコミセンを利用して参加しているということである。また、利用者の団体の中でそれぞれ、もちろん囲碁のサークルもあるし、短歌、俳句、英語、お茶もある。それぞれの団体でコミセンを利用して活動しているので、こちら側が主催するのは、難しい部分もある。団体ではかなりコミセンに入ってきている。

（井波委員）　それは開かれて、周知徹底されているか。

（吉祥寺西）　自由である。いつも開いていて、団体の利用者の中ではかなりそういった年代はサークルとして入って利用している。

（吉祥寺西）　今の質問に関して、私たちはある程度地域の人たちとのつなぎ役をやっていきたいと、考えている。

高齢者が多くなり、介護保険もパンクしそうだということで、国全体が予防介護的なことをやっている。それを考えた時、当コミセンも 20 年経っているが、最初にケアグループ、自分たちのできるボランティアをしていた。介護の教室を受けた方々が始めたものが地域に 13 グループあり、それが発展して地域福祉の会に吸収された。西コミセンではそういったケアグループの人たちとずっと共催しながらやってきた。たとえば一人暮らしの方のひなまつりの会もそうで、年に１回やっている。

また、地域の利用者の方で家族を介護しているものにとっても休養が欲しい、介護されている人を預かってくれる場所はないかということで、あじさい広場を作った。いらっしゃる最高齢の方は 90 何歳だが、元気に出てくる。最初、月１回の時は、ただお話を聞いたりしていた。絵手紙やバーベキューなど、楽しみを増やしたら、なおさらたくさん参加してくれた。それでも足りず、おしゃべりの会を第四火曜日にやっている。それもとても盛

り上がる。自分たちと同世代の人と笑い合って、お話をして、おにぎりを食べる、そういう会だが、福祉の会と共催でずっとやっている。

予防介護という言葉が出てきた時に、私たちコミセンで携わっているものとして、まさにコミセンを使って、コミセンに出てきたいという気分を起こさせるような活動をしているということは、予防介護にもつながっているのではないか。私たちは地域とのつなぎ役をやりたいということである。

ある時地域の管理栄養士さんがリタイアされたので、「私は本町四丁目に住んでいるので、何かお手伝いを」ということで、そのあじさいグループにつなげて、薬膳のことについてしばらく続けた。今は自主的に活動している子どもサークルの人たちに食育についてやってもらっている。それは母親たちにも好評である。親たちだけでその先生の料理教室に通うといった発展的な経過もたどっている。

そういうことで、私たちもつなぎ役として活かせるものがないかということを、現在考えている。

（高田委員長）　いい話だと思う。コミセンの役割を考えていく時の大きなヒントになる。

（西部）　先ほどパソコンの話が出たので、紹介したい。私たちのパソコン学習会は、もちろん技術もあるが、それよりもコミュニティを勉強することに重点を置くということで、活動している。

（高田委員長）　コミュニティの理解に重点を置くということだが、パソコンのあとで食事会などがあるのか。

（西部）　毎回ではないが、サポーターの人たちは、どのように進めていくかということで、反省会をしている。一般の受講者の方も学校の単位に合わせて、１学期から３学期としてやっているが、それぞれが終わったあとは、年に３回、みんなで談笑する機会は設けており、それは非常に大事だと考えている。

○次回以降の日程について

第７回委員会…２月 27 日

第８回委員会…３月 23 日

場所…両日とも 812 会議室

〔了〕